

事前説明における各委員の指摘と回答

番号	委員名	事業名	地区名	該当項目	意見等	回答
1	長澤委員長	全事業	全地区	基礎資料 事業の概要	事業実施前後の写真撮影年はなるべく全ての地区で記載すること。	掲載写真について撮影年を記載。
2	大熊委員	畑地帯総合整備事業	中足寄地区	基礎資料 1. 社会経済情勢の変化 (3) 地域農業の動向	高齢化が急速に進んでいるのは大きな課題であるが、事業実施後の農地の使われ方にも関連して、受益者の平均的な年齢や年齢構成はどのようにになっているのか。後継者の確保の状況はどのようにになっているのか。	確認結果 平均年齢57歳 30歳台 2人 40歳台 2人 50歳台 11人 60歳台 9人 70歳台 2人 後継者に委譲済み 3人 後継者あり 6人
3	大熊委員	畑地帯総合整備事業	中足寄地区	基礎資料 1. 社会経済情勢の変化 (3) 地域農業の動向	耕地面積が平成12年から平成22年で18%増加している要因は何か。	確認結果 耕地面積については農林業センサスを基に記載しているが、2005年調査時から足寄町公共牧場分の面積を含めているため増加している
4	長澤委員長	畑地帯総合整備事業	中足寄地区	基礎資料 4-(1) ② 農業生産の選択的拡大	畑地の排水性の改善により、新たにいんげんの作付が可能となり、作付が開始・増加していることを評価しているのであれば、地区別結果書の事後評価結果にも簡潔に挿入しても良いのではないかと。	意見を踏まえ、記載内容を修正。 (検討会時点) 本事業の実施により畑の排水性が改善され、生産性の向上、農作業の効率化が図られるなど農業経営の安定に寄与するとともに、農道の整備により生活環境の改善に寄与している。 (修正後) 本事業の実施により畑の排水性が改善され、生産性の向上、農作業の効率化が図られたことにより、新たにいんげんの作付けも導入されるなど農業経営の安定に寄与するとともに、農道の整備により生活環境の改善に寄与している。
5	岡村委員	畑地帯総合整備事業	中足寄地区	基礎資料 5 事業実施による環境の変化(2) 自然環境	事業実施前と後の排水路の写真からすると、経営体育成基盤整備事業「三軒屋地区」と同様に、事業実施により水生生物の生息に必要な環境が変化していることが明らかである。従って、「事業前の土水路がフリーム水路(コンクリート水路)になったことにより、水生生物の生息環境が失われ、事後評価時点で水生生物は確認されていない。」といった記載の追加が必要である。	意見を踏まえ、以下の記載を追加。 (修正後) また、排水路が整備されたことで水生生物の生息環境が変化し、評価時点において、在来のウグイやドジョウ等については下流域へ生息場を移している。 確認結果 整備後から評価時点までの様子を地域住民に確認したところ、在来のウグイやドジョウについては下流域へと移行しているものと考えられます。その際、下流域の生息環境の変化については確認されていないことから、地域一帯としての水生生物の生息環境を著しく変化させるまでには至っていないと推測されます。
6	大熊委員	畑地帯総合整備事業	中足寄地区	基礎資料 6. 今後の課題	これまで今後の課題に取り組みまれて、課題の解決が図られたものはどれくらいあるのか。	確認結果 畑作物における合理的な輪作体系として馬鈴薯→秋まき小麦→甜菜→豆類という4輪作体系を確立し、それぞれの作物毎の新栽培技術の導入による労働ピークの緩和、労働時間の削減により生み出された余剰労力により、足寄農畜産物加工開発研究会を中心として地産地消や食育推進等の取り組みを行っています。
7	波多野委員	畑地帯総合整備事業	中足寄地区	基礎資料 6. 今後の課題	他地区の今後の課題等の書きぶりとして参考になるのではないかと。地区として、事業により地域が活性化し、環境保全型農業の取組が図られていくと更に良い。	確認結果 環境保全型農業の取り組みについては、北海道で取り組まれている「Yes! Clean」(北のクリーン農産物表示制度)について、以下の2つが登録されています。 ① 足寄農協にんじん生産部会(H18登録) ② 足寄農協ごぼう・長いも生産部会(H18登録) また、上記2つの部会には本地区の受益者も含まれています。

事前説明における各委員の指摘と回答

番号	委員名	事業名	地区名	該当項目	意見等	回答
8	長澤委員長	畑地帯総合整備事業	畑総2地区	基礎資料 4. 事後評価時点における費用対効果分析の結果	算定結果を記載すること。	意見を踏まえ、記載内容を修正。 (修正後) 地区別結果書における (3) 事業による波及的效果 (4) 事後評価時点における費用対効果分析の結果を基礎資料に記載。